

令和 2 年度事業経過報告

社会福祉法人 蘇南会
グループホーム すみれ

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、例年になく感染に対する緊張度の高い年度であった。現在は、入居者、職員共に感染することなく過ごせている。

令和 2 年度グループホームすみれの事業経過であるが、稼働率については、前年度 95.3%から 94.2%と若干減少した。長期入院者の予後予測が立たず、退院日が不明のため新入居者へつなげる難しさがあった。しかし、スタッフが稼働率に対する高い意識をもち、働きかけを行った結果、前年度に近い稼働率を維持できた。

また、令和 2 年度は大きな事故なく過ごせている。現在は離荘の危険性の高い入居者に対し、身体拘束を行わずにどう安全に過ごしてもらうかが課題となっている。スタッフひとりひとりがプロ意識を持ち、より良いケアに当たれるように研修やケア会議の場を作り、情報の共有やスキルアップに努めたい。

【運営方針に対しての反省】

①入居者の自己実現への支援・健康管理・栄養管理

入居者の生活パターンに合わせ、ケアを行うことができた。しかし、コロナ感染症流行の中、入居者に制限を強いることも多く、自己実現への支援が十分できたとはいえない。また、健康面では、病院受診や訪問診療が困難な時期もあり、受診の代わりに電話で医療機関に報告すること数回もあった。入居者の急変にて救急車(ドクターヘリ)を要請することがあったが、マニュアルに沿って冷静に対応ができた。迅速な対応により、早期治療につながった。

制限のある中でも、野菜や野草を収穫し調理をすることで、季節を感じ、楽しみを持つことができた。園庭でのピクニックをしたり、外出できない中でも変化のある食事を摂れる工夫は行った。

②介護計画・サービス評価・情報の公表

家族の面会制限がある中、家族の意向の聞き取りや介護計画の説明は電話で行うことが多かった。自己評価については、今年度の目標に挙げていたが、感染症対策等業務が重なり実施ができていない。外部評価は、感染対策を十分行った上で遅れて実施することとなっている。

③家族・地域との関わり、支援ネットワークの構築

今年度は、コロナ感染症の拡大により、自由に家族と会うことができず、家族と触れ合う時間

が大変減っている。外出もままならず会えない寂しさやストレスも感じられているようである。窓越し面会が可能な時は、遠方の家族を除くと、定期的に訪問があつている。電話や訪問時にはなるべく普段の生活の様子を家族に伝えるようにしている。

運営推進会議が立ち入り制限中で開催できず書面にて報告を行った。地域の活動の状況も推進委員の方より随時連絡を受けている。

④災害対策、事故対策

コロナ感染により、流通が止まる可能性があり、早めに食品や衛生用品の備蓄の準備を行った。食品を余らせてしまうこともあつたが、備蓄があることにより安心して過ごすことができた。

年2回の防火訓練は実施したが、今年度実施する予定であつた自然災害時の訓練はコロナウイルス感染予防のため延期になり行っていない。収束後は速やかに行いたい。

⑤職員の資質の向上・コミュニケーションの円滑化

職員同士のコミュニケーションは密に行えている。会議や申し送り時には、率直に気づきや意見をお互いと言える環境にある。特に、入居者の状態については、連絡ノートの活用で伝達漏れがないよう心掛けている。